

と し よ か ん 宇 治

No. 52

2004年3月1日発行

宇治市中央図書館
〒611-0023 宇治市折居台1-1
0774 (39) 9256

宇治市東宇治図書館
〒611-0011 宇治市五ヶ庄三番割36-5
0774 (39) 9182

宇治市西宇治図書館
〒611-0042 宇治市小倉町山際63-1
西小倉地域福祉センター3階
0774 (39) 9226

絵本からもらったもの

劇団「ふたり」主宰 木原 由佳里

「お母さん、今日も、『きかんしゃちゅうちゅう』を読んでほしいな」

我が子にせがまれて、『いたずらかかんしゃちゅうちゅう』を何度読まれたことでしょうか。

「またこの本を読むの?」

そう言いながらも、私は本を手にとって「あるところに、ちいさなきかんしゃがありました」と読み始めるのです。

子どもは、話の内容などとくにわかっています。同じ



西宇治図書館「おたのしみかい」での劇団『ふたり』の上演

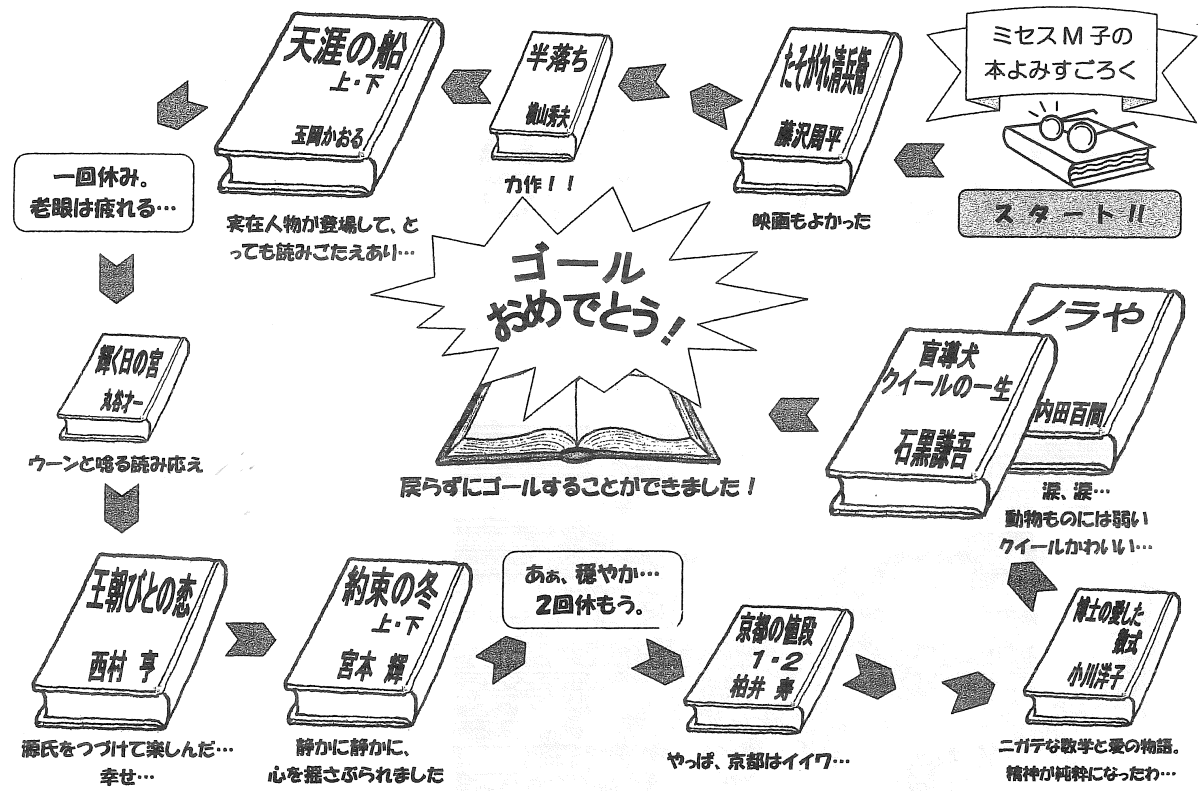
ところでケラケラ笑い、同じところで「やったあ」と手をたたきます。お話の内容がわかっているとしても読んでほしいのですね。大人の私達にはまねのできないことでしょう。何度も同じ本を読み返すなんてね。

それにしても、子ども達は何度も絵本を読んでほしいとねだります。このような経験をされた方はいらっしやいませんか? 「そうそう」とうなずいている方にはよくわかっていただけることでしょうか、嬉しそうにウキウキとして本棚から絵本を取り出して来る子どもの姿を見ていると、読まずにはいられなくなってしまう。すでにこの時、私の心からは仕方なくという気持ちが消えうせ、もっともって読んでやりたいという気持ちになっっているのです。

さて、我が子に絵本を読み聞かせるようになったのは、想像力の豊かな子に育てたい、絵本の中でいろんな世界を経験してほしい、情緒豊かな子どもに育てほしいという思いからでした。

ところが、何冊も絵本を読み聞かせているうちに、いろんな出会いとたくさん感動を子どもからもらっている事に気がついたので。お話し会に出かけて行って知り合えた人や、私自身が劇団活動を始めるきっかけとなったことなど、子どものためにも思ったことが、自分の人生にも大きな影響を与えていました。

今では、そんな我が子もすっかり大きくなり反抗期をむかえています。部屋には漫画の本が山積みです。小さい頃は、毎晩あんなに絵本を読み聞かせていたのに……一体どうなってしまったのかと、子育てに対して自信喪失の毎日です。けれども、いつの日かきっと絵本のことを懐かしく思い出してくれるのでしょうね。私は、子どもの小さい頃を思い出しながら「いたずらかかんしゃちゅうちゅう」をひとり静かに読み返してみました。



市の鳥「カワセミ」(翡翠)の話

カワセミが宇治市の「市の鳥」に制定されていることをご存じですか。カワセミは、翡翠の名前から分かれるように空飛ぶ宝石とも呼ばれ、肩から翼にかけて、鮮やかなエメラルドブルーの色彩をもつ美しい鳥です。川の瀬で見る機会が多いので「川瀬見」、川で背の美しい鳥で「川背美」とも書きます。

平岩弓枝さんの小説に「御宿かわせみ」のシリーズがありますが、カワセミの美しさ・優雅さを店名にしたのでしょうか。

小さな体に大きく丈夫なくちばしを持ち、水際に突き出した杭や枯れ枝に止まって、魚が近づくと頭から急降下して水に飛び込み、くちばしで捕らえます。

これぞと狙った獲物は必ずいつかは仕留める習性があるそうです。

「濁りえの濁りに 魚はひそむとも などかわせみの 獲るで止むべき」

これは大石内蔵助が討入りの決意を歌に託したのですが、獲物を仕留めるまでじっと待つカワセミの習性をよく表わしています。

清らかな河川を好むことから、水質の示準鳥とされるこの鳥が生息しているということは、宇治川が清流であることの証しといえます。

いにしえの時代からとうとうと流れ続ける宇治川は郷土の象徴です。いつまでもカワセミが美しい姿を見せてくれるためにも、川を守りたいものです。

中央図書館のカウンターにはカワセミの「剥製」が置いてあります。

(出典「京都の野鳥図鑑」 河合敏雄・京都新聞社)



※返却期日を守りましょう

図書館へようこそ

利用者インタビュー

第 38 回

北谷直美さん



今回は、槇島町にお住まいの北谷直美さんにお話を伺いました。北谷さんは主に「予約図書配本サービス」を利用していただいています。

★図書館はいつ頃から利用されていますか？



今から約十年前、長女が三歳の時に絵本の読み聞かせを始めました。それがきっかけで、たくさんのお本がある図書館を利用するようになりました。以前は移動図書館「そよかぜ号」を利用し、西宇

治図書館ができてからはそこへ自転車で行くようになりました。しかし、予約図書配本を「市政だより」で知っ

てからは、私はこのサービスを利用してもらっています。二人の子どもは西宇治図書館へ行き、二週間に一回、日曜日には家族で中央か西宇治の図書館へ車で出かけて、たくさんのお本を借りています。以前、子どもが予約した本をわざわざ府立図書館から借りてもらった時は、すごくうれしかったです。

★予約図書配本を利用されていますが、その感想をお聞かせください。



新聞広告や新着案内などで知った新刊の本を予約しておく、近くの配本所まで持ってきてもらって、私は車に乗れないので、大へん助かっています。今のままでも充分満足していますが、できれば、配本所でも前のそよかぜ号と同じように、少しでもいいから現物を見て読みたい本を選ぶことができればうれしいですね……。

★インターネット予約はされていますか？



今はまだ利用していませんが、便利だと思っているので、これからは使っていきたいと思いま

す。

★祝日も開館していることをご存じですか？



知っています。前に、祝日に間違って図書館へ行っただけがありました。家族そろって利用できる日が増えることは助かります。

★どんな本を読まれますか？



教育や栄養、料理の本、それにエコライフなどの環境問題の本が多く、小説はあまり読みません。暮らしの情報源は図書

点訳絵本 七冊を寄贈!

五ヶ庄にお住まいの原たゑ子さんは視覚障害の子どもたちにも絵本を楽しんでもらおうと、一昨年から点訳絵本(点字で訳された絵本)を作成され、中央図書館にすでに七冊を寄贈していただいています。昨年十一月に原さんからいただいた「そらまめくんのベッド」「こぐまちゃんおはよう」を含め、中央図書館では「カッピのぼうけん」「初天神」「わすれないあの日」など全部で一冊の点訳絵本を所蔵しています。



原さんから寄贈していただいた点訳絵本の一部

点訳絵本で豊かな想像力を育てていただくため、図書館では皆さんのご利用をお待ちしています。

館から得ています。本で得た知識を試してみるんですよ。例えば玄米食は、すぐ生活の中で実践しています。★図書館に対して、他にご意見、ご要望があればお願いします。
★どうもありがとうございました。現状で満足しています。



⑤予約図書配本サービス

移動図書館の廃止後、平成十五年度から新たに始まったサービス。予約図書を市内四カ所の公共施設に搬送し、そこで貸し出しを行う。

郷土のはなし

昭和二十八年の災害

昭和二十八年（一九五三）の八月と九月に、豪雨と台風による大雨で南山城に大水害が起こり、大きな被害を受けました。この災害は「二十八災」とも呼ばれています。

昭和二十八年八月十四日から十五日にかけて、南山城地方に二九〇ミリの豪雨が観測されました。この雨で綴喜郡井手町の大正池が決壊し、玉水地区の大半が水害に遭いました。

また相楽郡和束町・笠置町・山城町でも水害が起こり、その被害は、両郡あわせて死者・行方不明が三百六十七人にも達し、他にも床上浸水、田畑流失、道路・橋の損壊などもあり、その被害は甚大なるものでした。

宇治市内でも隠元橋の流失や名木川堤防の決壊、民家・田畑の浸水などの被害はありましたが、綴喜・相楽の被害に比べると軽度のものでした。

ところが、この水害の復興ができていないにもかかわらず、九月二十

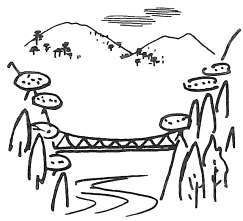
五日に台風がやってきたのです。この台風は夕方に紀伊半島をかすめて志摩半島に上陸し、本州を縦断して東北にぬけていきました。この台風は典型的な雨台風で、二十五日から二十六日までの総雨量が二一四ミリにも達しました。この大雨により、天ヶ瀬吊橋、喜撰橋、橋橋が流失し、さらに宇治川が増水し、伏見区向島の観月橋下流左岸の堤防が決壊しました。水は巨椋池干拓地に流れ込み、

田畑はもちろん小倉地域等の家屋にも浸水しました。

また東部の木幡・六地蔵や山間の笠取でも川が氾濫し、所々で山崩れが起こるなど、この台風により宇治市全域で大きな被害を受けました。

この二つの大災害で、国や府から援護措置がとられるとともに、二度とこのような災害が起こらないよう、防災工事も行われました。その一つが

天ヶ瀬ダムの建設で、もう一つは山科川の整備です。この工事の完成により、大規模な水害はなくなりましたが、いつ起こるかわからない災害のためにも、「二十八災」のことはいつまでも忘れてはなりません。



利用案内

市内に在住、または市内に通勤・通学されている方なら、貸出券を作ることで一人十冊三週間、本が借りられます。貸出券は全館共通です。図書館で借りた本は市内のどこの図書館へも返却することができます。

図書館は九時から十七時まで開館しています。休館日は毎週月曜日、第四木曜日（いずれも祝日の場合は翌日）、祝日の翌日（土・日曜日の場合は平日に振替）、年末年始です。

予約された本を市内四カ所の公共施設（木幡公民館、槇島コミュニティセンター、南宇治コミュニティセンター、開地域福祉センター）で受け取ることができます。毎週一回、木曜日の午後に搬送します。

図書館で借りた本は公共施設へ返却することはできません。

あとかき

中央図書館は昭和五十九年に開館してから、たくさんの方に利用していただき、今年の秋、二十周年を迎えることとなります。今後とも、よろしくお願いたします。